

## 板橋区都市づくりビジョン改定骨子案に対するパブリックコメントと区の考え方

- 1 募集期間：令和 6 年 9 月 28 日（土）～10 月 30 日（水）【33 日間】
- 2 件 数：72 件・15 人（持参 1 人、メール 5 人、Web 回答 9 人）
- 3 意見の概要と区の考え方

No.	項目	意見の概要	件数	区の考え方
1	骨子案 全体	絵本のまち「いたばし」を推進すべく、絵本と人が繋がる空間が創出できるとよい。	1	区の政策にご理解をいただき、ありがとうございます。区では「絵本のまち」を軸に、交流とにぎわい・子育てしやすい環境を創出することにより、若い世代の定住化促進と、いつまでも元気に活躍し、学びとみどり豊かな環境を創造しながら未来へ継承し続けるまちの実現をめざしています。いただいたご意見を踏まえ、今後、計画の検討を進めてまいります。
2	骨子案 全体	この計画の良い点は 他の政策分野とのバランス良い連携である。都市工学上の技術的政策として、快適な居住、交通便利、環境保全、安心・安全という各種技術の直接目的だけでなく、それらを産業・地域・文化の振興や子育て・健康づくり、区民参画・官民協働等ソフト的な他の政策とも連携を図ることにより、環境・経済・（人を含む）社会・政策における持続可能な未来を実現すると示されている。	1	ご理解いただき、ありがとうございます。区としても、都市づくりにおいてはハード面の方針のみならず、ソフト的な施策との連携は非常に重要であると考えています。いただいたご意見を踏まえ、今後、計画の検討を進めてまいります。
3	骨子案 全体	この計画の良い点は、技術的政策として充実した総合性である。この計画は実務的には都市整備政策で、理論的には土地利用のルール作り政策であるが、計画が目指す都市構造や方針では、居住・産業・公共インフラが整備された各地域を交通インフラで結び、次世代技術を導入しつつ自然環境や都市景観、安心・安全を確保して、区民生活向上・地域活力増進・区の魅力向上を達成すると記されている。ルール作りだけでなく社会基盤と研究・開発、資源・環境、防災・防犯も考えて都市づくりを行う、総合的な技術的政策となっている。	1	ご理解いただき、ありがとうございます。区民の皆様の生活と回遊の満足度を高めていくために、歩きやすい・歩きたくなる都市づくりを推進していきます。いただいたご意見を踏まえ、今後、計画の検討を進めてまいります。
4	骨子案 全体	この計画に希望する点は、人の向上と活躍の増進を含む、次世代技術の活用である。技術の進展により、経済・社会活動が拡大、省力・複雑・加速化する中で、AI 等の次世代技術を技術的政策で導入し、産業・福祉、教育・保健、行政改善等多様な	1	ご理解いただき、ありがとうございます。区も次世代技術を活用したまちづくりの効果検証を行うことで、より効果的・効率的な施策展開を図ってまいります。現計画の策定以降に大きく進展した分野であるため、今回の計画改

No.	項目	意見の概要	件数	区の考え方
		分野で活用することが必要である。 都市整備政策は文明全体の基盤となる都市を築き、人々の社会活動を支える政策であり、次世代技術の導入による文明の循環、文明の循環による社会政策、人的資源政策、行政管理政策等による「文明の潮流（トレンド）」を抑えた政策が重要である。		定においてもしっかりと視点を取り入れて検討を進めてまいります。
5	骨子案第2章	骨子案3ページ第2章にある進化の実感はない。	1	改定骨子案の第2章では、「板橋区の都市計画マスタープランの進化」として、それぞれの時代に応じて、社会要請を受けながら板橋区が注力してきた都市づくりの考え方を整理しております。いただいたご意見を踏まえ、今後、計画を整理していく中で、構成や表現を検討してまいります。
6	骨子案第2章	「東京で一番住みたくなるまち」として評価されるまちの評価が曖昧である。地域間競争は意味がなく、目指す必要はない。市街地再開発を進めても「住みたくなるまち」にはならない。市街地再開発を進めて区民がどのように住みたくなるのか、教えてほしい。	1	市街再開発事業は都市計画手法のひとつであり、不足している道路・公園などの公共施設を計画的に整備するとともに、良好な生活環境を備えた都市型住宅の供給や業務施設の近代化を図るなど、安全かつ快適な生活空間を創出する総合的なまちづくりを実現するものです。 市街地再開発事業が進められている地域については、まちの大きな転換期と合わせた民間開発誘導のための様々な手法の導入や、区民活動と連携したまちづくりなどの展開を更に進めてまいります。 これらの取組により、「板橋区全域」がより良い都市、選ばれる都市となることをめざし、引き続き市街地再開発事業が進められている地域が「進展の要」となる施策も含めて検討を進めてまいります。
7	骨子案第3章	骨子案4ページに「“ひと中心”であることが、より一層重視される都市へ」とあるが、実感はない	1	改定骨子案4ページでは、社会経済情勢の変化として、社会全体で求められていることを整理しております。 近年、実際に都市空間で生活・活動する方々の目線に立った都市づくりが、世界的に注目されております。 板橋区に住んでよかった、住み続けたいと思ってもらえる満足度の高いまちを実現するための重要な視点であると認識しております。
8	骨子案第3章	骨子案4ページの都市づくりの新たな潮流について、選ばれるまちは無意味であ	1	今後、人口減少傾向に転換していく社会では、持続可能な都市を維持するた

No.	項目	意見の概要	件数	区の考え方
		る。よそからの人よりも今いる区民がここで住んでいきたい、住める環境を作ることが大切である。保育園や幼稚園を増やすことで子育てに良い場所と思われることこそが「良いまち」である。子供が減ったからと学校を減らしては子供がますます減る。		めに都市活動を支える区民の皆様の活力が重要となります。 区民の皆様には、愛着をもって住み続けてもらい、区外からも住んでみたいと選んでいただけるまちとなるよう、板橋区の魅力・つよみを活かすブランド戦略が重要であると考えております。 そのためには、ご指摘の通り、若い世代や子育て世代に選ばれる施策とも連携した都市づくりに向けて、引き続き検討を進めてまいります。
9	骨子案第3章	骨子案4ページのウォークアブルなまちは大賛成であるが、公共空間（官）やオープンスペース（民）が増えているようには感じていない。	1	改定骨子案4ページでは、社会経済情勢の変化として、社会全体で求められていることを整理しております。 区も市街地内の良好な公共空間（官）やオープンスペース（民）を増やしていくことは、都市づくりにおいて重要であると考えており、良質な空間の整備や維持の方針について、引き続き検討を進めてまいります。
10	骨子案第3章	骨子案4ページの激甚災害、複合災害、気候変動への備えとして、木造密集地への対策は滞っている気がしている。 気候変動に備えて、住宅の断熱化を耐震化とともにを行なうことが必要と思う。 また、夏にクーラーがない・使えない方への対応も当面必要と思う。学校の冷暖房、避難所と予定されている建物の耐震化や冷暖房機器設置も必要である。 また、事前復興は事前防災・減災を軽視し、やるべき対策を放棄しているようで心配である。復旧・復興に向けてできることは今やっておくべきである。	1	複数の具体的なご意見をありがとうございます。改定骨子案4ページでは、社会経済情勢の変化として、社会全体で求められていることを整理しております。 いただいたご意見を踏まえ、今後、計画の検討を進めてまいります。
11	骨子案第3章	骨子案4ページにある「噴火が起きても都市活動を維持する」ことが具体化されていない。噴火被害は地震より大変といわれているが、具体的な対策を教えてほしい。	1	改定骨子案4ページでは、社会経済情勢の変化として、社会全体で求められていることを整理しております。 「噴火が起きても都市活動を維持する」との記載は、東京都のTOKYO 強靱化 PROJECT（令和5年12月）の強靱化に向けて2040年代にめざす東京の姿から引用しております。 区の関連部署と連携した都市づくりの推進に向けて、引き続き検討を進めてまいります。
12	骨子案第3章	骨子案4ページのカーボンニュートラルの実現・グリーンインフラの取組について、板橋区には国道が2本も縦断し、首都	1	区としても、これからの都市づくりにおいて、“みどり”が点としてではなく、軸や面となって連なっていくことが重

No.	項目	意見の概要	件数	区の考え方
		高速道路、山手通り、環状7号線、環状8号線が通り、日本で有数の汚染交差点、板橋中央陸橋と大和町交差点がある。他のエリアでこれをカバーするだけのみどりがあつてこそバランスがとれる。2050年までのカーボンニュートラル実現に向けた取組を具体化して進める必要がある。		要であると考えております。 いただいたご意見を踏まえ、引き続き、“みどり”を視点に組み入れた都市づくりの方針の検討を進めてまいります。
13	骨子案第3章	骨子案4ページの「次世代技術の社会実装に向けた挑戦」について、どのような構想を持たれているのか、ご教示いただきたい。	1	現在でも、タクシー配車アプリの普及で、タクシー乗り場に限らず好きな場所でタクシーに乗ることができ、パーソナルモビリティの普及により、自転車以外の個人の移動手段の選択肢も増えてきています。 今回の計画検討では、将来を見据え、自動運転やドローン配送、新たなモビリティの社会実装を想定した交通結節点（駅前広場等）や道路などの空間再編・充実を図りながら、シームレス（境目なく）な移動を実現していく都市づくりの方針の検討を進めてまいります。
14	骨子案第4章	骨子案5ページに、「1 東京圏における板橋区～生活利便性の高さと多様性(ダイバーシティ)」としてはどうか。 板橋区の魅力を端的に表した言葉であり、ブランド形成においてもキーワードになる。	1	区としても、成熟した都市においての多様性の視点は、住宅・コミュニティ・移動・公共施設整備などの多様な分野においても非常に重要であると認識しております。 いただいたご意見を踏まえ、多様性の視点をどのように組み入れていくか、引き続き検討を進めてまいります。
15	骨子案第4章	骨子案5ページで、板橋崖線をもっと密度濃い充実した緑地帯として位置づけてほしい。 東京都のランドデザインでは、板橋区の位置づけは環状7号線の内側を「中枢広域拠点域」としている。地図上では高密度な走路、交通ネットワークがあるように思えるが、暮らしの中ではまだまだ不便。外側を「新都市生活創造域」としているが、そんな単純ではない。「緑と水に囲まれたゆとりある市街地が構成され、子供たちが伸びやかに育つことができる快適な住環境を再生・創出していく地域」を本当に目指してほしい。	1	区としても、板橋崖線は区の貴重な資源であると捉え、都市構造において都市の重要な「みどりの骨格」と位置づけております。 いただいたご意見を踏まえ、グリーンインフラとしての“みどり”や“水”を活かした方針及び崖線の保全・活用などについて、引き続き計画の検討を進めてまいります。
16	骨子案第4章	骨子案5ページに、「手頃感のある住宅と都心へのアクセス性」とあるが、「手頃感」という言葉は、人によっては悪い印象を持つ懸念がある。「相対的に割安な住宅」がより適切ではないか。	1	いただいたご意見を踏まえ、今後、計画書として整理していく中で、適切な表現を検討してまいります。

No.	項目	意見の概要	件数	区の考え方
17	骨子案第4章	骨子案5ページでは「東京都区部の有数な産業都市」と評価しているが、4ページでは「新技術の社会実装に対応した都市機能・都市整備の再編・整備」とあり、そのような再編をしたいエリアなのではないか。	1	改定骨子案4ページでは、社会経済情勢の変化として、社会全体で求められていることを整理しており、改定骨子案5ページでは「東京都区部の有数な産業都市」は板橋区の現状の特徴の1つとして捉えております。 今後の産業都市としてのあり方については、区の関連部署と連携しながら、引き続き検討を進めてまいります。
18	骨子案第4章	骨子案7ページに“ひとの活動”としての板橋区の魅力・つよみについて、以前の大東文化大と提携をしていたが続けて欲しい。全大学でテーマを掲げて取り組んで欲しい。大学に「板橋学」の研究室を設置してほしい。区内の大学で板橋学を学んだ方が職員で活躍できれば素敵である。	1	区としても、板橋区内の6つの大学は貴重な地域資源であると認識していることから、同大学と連携協定を締結しております。 今回の計画検討においても、意見交換などを図りながら、計画の検討を進めてまいります。
19	骨子案第4章	骨子案7ページに「板橋区の都市の魅力を高める活動団体」とあるが、区の魅力を高めるために活動しているわけではない。まちづくり協議会は誰でも入れるように門戸を開いて欲しい。 「板橋区のブランドを形成しているイベント」はブランドのためのイベントではない。 「板橋区らしい町並み・景観形成」に関して、部分的な写真を出しているが、良い町並みや景観形成の方向に進んでいるようには見えない。	1	具体的なご意見をありがとうございます。 各々の内容がどのような魅力があるのか、都市づくりと連携できるのかなど、いただいたご意見を踏まえ、今後、計画の検討を進めてまいります。
20	骨子案第4章	骨子案8ページの生活者としてのひとの動き（人口動向・将来動向）について、実状と予測は理解できるが、板橋区はどのように人口動態に進みたいのかが不明である。	1	今後、人口減少傾向に転換していく社会では、持続可能な都市を維持するためには、都市活動を支える区民の皆様の活力が重要となります。 区民の皆様に愛着をもって住み続けてもらい、区外からも住んでみたいと選んでもらえるまちとなるよう、板橋区の魅力・つよみを活かす都市づくりに取り組み、人口減少を抑制していくことを基本的な方針としております。
21	骨子案第4章	骨子案8ページの高島平地域の将来予測について高島平駅周辺で人口が一部減少するとの予測だが、近年の住宅供給数のトレンドが過度に強調されている可能性はないか。UR団地の占める割合が大きい高島平周辺は潜在的な需要に対して、過小評価されているのではないか。近年における住居費の高騰トレンドの中であって、都心や副都心部に45分以内でアクセ	1	改定骨子案8ページの「今後の東京圏の人口増減見込」は、総務省統計局の算出方法を用いた推計値です。そのため、基本的には、過去の人口動向の傾向から推計していることから、ご指摘のとおり、潜在的な需要の評価などは反映されておりません。 区としては、高島平地域のまちづくりについては、板橋区全域に波及効果の

No.	項目	意見の概要	件数	区の考え方
		<p>ス可能、かつ、23 区内にありながら大規模で統一のとれた街並みの高島平エリアは、再開発がなされれば必ず評価される。高島平地域の魅力と都市機能を高めるため、都心/副都心へのアクセス時間を重視する住民に訴求する施策(都営三田線への優等列車の誘致等)や、戸田市和光市といった外縁方面の住民を事業所の従業者や賑わい施設の顧客として吸引できるような施策(たとえば、駅前ロータリー空間の整備と自動運転も見据えた中域 BRT ターミナルの設置等)、広い土地を活かした区内公共機能の移管(カンファレンス施設の整備や宿泊施設の誘致等)、新河岸川といったグリーン資源を活かした防災機能と交通機能の一体的な強化(水上バスの高島平以西への延伸)といった野心的な計画を強く望む。</p>		<p>ある魅力的なまちづくりを進めており、高島平地域のまちづくりと連携した効果的な資源活用や周辺まちづくりとの連携を、引き続き検討してまいります。</p>
22	骨子案第5章	<p>骨子案 10 ページの「“ひと”と“みどり”ともにつなぐ都市づくり」について、緑は減っているのではないか。</p> <p>加賀地域では車椅子の通行を確保するために歩道上の植え込みが削られた。面積の増減を教えてほしい。マンションが提供している土地を考慮せず機械的に植え込みをなくしてしまっていた。</p> <p>健全な状態と見られる桜の木もずいぶん切られた。伐採の基準や、伐採の判断をした樹木医を明らかにしてほしい。</p>	1	<p>ご指摘の通り、板橋区の緑被率は平成 26 (2014) 年から平成 31 (2019) 年にかけて、0.89%減少しています。</p> <p>しかし、これからの都市づくりにおいては、ひとが心地よく幸福感を感じられる豊かな都市空間づくりに、“みどり”は重要な要素であると考えております。</p> <p>一方で、道路は、あらゆる日常生活を支える社会資本であり、だれもが将来にわたり、安全で快適に通行できる空間となるよう、必要な歩道幅員を確保していく必要があります。歩道幅員が確保できる箇所においては、植樹帯を設けるなど、緑の確保にも努めております。</p> <p>また、石神井川緑道の樹木については、樹木医による樹木診断調査を行っており、外観診断及び機器診断などにより不健全と判断した樹木や、枝や幹に著しい被害が見られる樹木などを中心に、伐採を含む樹木の維持管理に努めております。ご理解をいただきたいと思います。</p>
23	骨子案第5章	<p>骨子案 10 ページの将来都市ビジョンの方向性について、「ブランド形成」は無意味ではないか。</p> <p>「脱炭素」は良いと思う。科学的に効果的に進め、エネルギーを多く使う高層建築は避けるべきである。本庁舎も含め、今あ</p>	1	<p>今後、人口減少傾向に転換していく社会では、持続可能な都市を維持するために都市活動を支える区民の皆様の活力が重要となります。</p> <p>区民の皆様には、愛着をもって住み続けてもらい、区外からも住んでみたい</p>

No.	項目	意見の概要	件数	区の考え方
		る建物を改修して使うのが脱炭素だと思う。 「安心安全でしなやかな都市の形成」について、災害への対応として逃げ出さなくても良いまちを目指してほしい。太い道路、鉄道、川があるエリアでは、内側での避難エリアを確保したい。例えば板橋1・2丁目内は大きな避難エリアがないので、公有地の拡大を図り避難エリアを確保すべきではないか。		と選んでもらえるまちとなるよう、板橋区の魅力・つよみを活かすブランド戦略が重要であると考えております。 「脱炭素に貢献する都市形成」や「安心安全でしなやかな都市形成」に関する施策については、いただいたご意見を踏まえ、今後、計画の検討を進めてまいります。
24	骨子案第5章	「将来都市ビジョンの方向性」で、①ブランド形成、②脱炭素、③安全安心しなやか、の3つがあげられているが、「将来都市構造：ネットワーク型集積都市の実現」の視点では、①持続可能、ひと中心、②地域資源・公共資源、③ブランド価値の並びになっており、わかり難い。 ①ブランド形成⇔ブランド価値、②脱炭素⇔持続可能、③安全安心しなやか⇔地域資源・公共資源、という対応関係を考えて、視点の順番を変えた方が良いのではないか。骨子案10ページも同様である。	1	いただいたご意見を踏まえ、今後、計画書として整理していく中で、構成や表現について検討してまいります。
25	骨子案第5章	骨子案10ページの「みどりと水辺の回遊ネットワーク」、「グリーンインフラとまちなかにあるみどり空間をつなぐことで、回遊性を高める」という実感はない。	1	改定骨子案10ページでは、20年以上先を見越した板橋区のまちのあるべき姿として、将来都市構造を整理しております。 大規模な公園・緑地や河川などを、平常時・災害時に機能する「グリーンインフラ」として活用するとともに、まちなかにあるみどり空間をつなぐことで、回遊性を高める都市構造をめざすことを示しております。
26	骨子案第5章	骨子案10ページの「地域交通結節点とまちのネットワーク」の「多様なモビリティ」とは何を指すか。移動をしにくい方々へのサポートをできるモビリティは思いつかないので教えてほしい。	1	改定骨子案10ページでは、20年以上先を見越した板橋区のまちのあるべき姿として、将来都市構造を整理しております。 今後、社会実装が想定される自転車以外の個人の移動手段の選択肢（グリーンスローモビリティやシェアモビリティ等）を「多様なモビリティ」という表現にしております。
27	骨子案第5章	骨子案10ページに「概ね徒歩15分利用圏で鉄道駅が配置されている板橋区のつよみ」と記載されているが、高齢者、障がい者にとっては、この15分の徒歩と鉄道駅の長い階段が時には問題になる（Last one mile）。この（Last one mile）は、タクシーでも補完できるが、グリーン	1	高齢者や障がい者などの移動については、ご意見の通り、徒歩だけでなく様々な移動手段の選択肢を活用していきながら、回遊性の向上を図っていきたいと考えております。 いただいたご意見を踏まえ、今後、計画の検討を進めてまいります。

No.	項目	意見の概要	件数	区の考え方
		スローモビリティ等を使って、地域の点と点を線で結ぶ事で、地域住民の利便性を向上させ、且つ、人の流動性を創出し、ビジネスチャンスに繋げることができる。		
28	骨子案第5章	骨子案1 1ページの「土地利用」について、どの様な構想を持たれているのか、ご教示いただきたい。	1	農業・工業・商業・住宅地など多様な土地利用がある板橋区のまちが、画一的にならないよう、各地域の個性化を図り、愛着と誇りを感じられるまちとなる都市機能の誘導施策について検討をしております。 また、大規模な土地利用転換に対し、公共需要の変化などの地域課題の解決や周辺環境の調和に配慮した良好な開発を誘導するしくみの強化についても、引き続き検討を進めてまいります。
29	骨子案第5章	骨子案1 1ページの「土地利用」について、駅を中心に商業施設や住宅を集積することに加えて、公共施設（小規模な窓口機能だけでも良い）機能も駅を中心とした区域に立地する計画にすると、普段から忙しい子育て世代にとって住みやすいまちに繋がり、板橋区の価値の向上にもつながると思う。都市づくりビジョン骨子の考え方に公共施設と連携した拠点の形成を加えて欲しいと思う。	1	公共施設と連携した都市づくりの展開を図ってまいります。 いただいたご意見を踏まえ、関連部署と連携しながら、今後、計画の検討を進めてまいります。
30	骨子案第5章	骨子案1 1ページの「交通体系」にある、シームレス、ウォーカブルのキーワードは大変良い。そして、「東武東上線の立体化…を見据えた交通の円滑化・安全性の向上」と明記されているのは素晴らしい。「ネットワーク型集積都市」実現に欠かせないポイントであり、交通体系だけでなく、「安心・安全」の根幹でもある。	1	ご理解いただき、ありがとうございます。 いただいたご意見を踏まえ、今後も、区民の皆様に共感いただけるビジョンの検討に努めてまいります。
31	骨子案第5章	骨子案1 1ページの「交通体系」モビリティについて、人やモノを運ぶ視点に加えて、「サービス」を運ぶ視点を追加してほしい。昨今、自動運転を含むモビリティの実証実験が数多く行われているが、その後社会に実装されたという話を余り聞かない。従来の人を運ぶといった視点だけでなく、様々な視点を加えることによって持続可能なモビリティとなり、真に需要がある人にサービスが提供されることで、生活の質の向上につながると思う。	1	区としても、シームレスな移動を推進していくうえでは、都市基盤の再編・整備のみならず、そこに付随するサービスとのシームレスな連携が必要であり、くらしやすさや利便性の向上につながるものと認識しております。 いただいたご意見を踏まえ、今後、計画の検討を進めてまいります。
32	骨子案第5章	自然環境について、公有地の拡大を図り、全体の環境もコントロールをすることが必要である。当面は誰の所有であろうと	1	区としても、市街地内のみどりは重要であると認識しており、公有地のみならず民有地の広場空間なども同様に捉



No.	項目	意見の概要	件数	区の考え方
		緑地として存続できるような支援策の充実が必要である。		え、質の高いみどり空間をつないでいくことで居心地良く歩きたくなる都市づくりの展開が重要だと考えております。 いただいたご意見を踏まえ、今後、計画の検討を進めてまいります。
33	骨子案第5章	骨子案9、11ページの「分野を超えた連携テーマ」に、「シームレス、ウォークアブルな交通体系の構築と安全安心の向上」という表現を入れてほしい。	1	区としても、「ひととモノのスムーズな移動」をめざしており、移動の円滑化や安全性の向上については、改定骨子の方針に記載をしております。 いただいたご意見を踏まえ、今後も、計画の検討を進めてまいります。
34	骨子案第5章	骨子案11ページの公共空間の活用について、昨今、公園等の公共空間をリニューアルして、多くの人が訪れる空間になる事例がみられる。子育て世帯に選ばれるまちになるよう板橋区でも公園、道路、その他の公共空間を活用・リニューアルして、1つでも多くの良い空間の整備や、活用につながる計画となるよう、都市づくりビジョン（骨子）に期待している。	1	区としても、生活と回遊の魅力向上を図っていくためには、地域資源や公共資源の活用による地域活性化を促す都市づくりが重要だと考えております。 いただいたご意見を踏まえ、今後、計画の検討を進めてまいります。
35	骨子案第5章	骨子案9ページと11ページに、「子育て・健康」の項目を入れてほしい。若い世代、子育て世代を引き込むためには、第一に保育園の充実、子育てへの支援が重要で、第二に交通利便性が重要である。いかに少子化、生産人口の減少を食い止めるかは重要な課題であり、「子育てにやさしいまち」は、板橋区の魅力・ブランド価値を高める意味で重要である。	1	区としても、若い世代、子育て世代に選ばれるまちをめざす必要があると認識しております。 区の関連部署と連携した都市づくりの推進に向けて、検討を進めてまいります。
36	その他	東武東上線の鉄道高架化により、日照や騒音等新たな問題が出る。小田線下北沢周辺や西武新宿線の中井・野方周辺のような地下化が望ましい。どうして東武線ではできないか、東武デパートとも連携した未来への施策を望む。 現状、山手通りと環状7号線・環状8号線の間は豊島病院近くのガード以外は平面交差で危険である。駅舎を平屋か地下化することで、駅敷地は緑あふれる広場にできる。区内の駅前には人々が集える「広場」ではなく「交通路」である。	1	具体的な都市のイメージをご提案いただきありがとうございます。 「東武鉄道東上本線（大山駅付近）連続立体交差事業」では、事業主体である東京都が鉄道周辺等の地形的条件、除却する踏切の数等の計画的条件、事業費や事業期間等の事業的条件、これらの3つの条件を総合的に判断し、高架方式を選定しており、令和元年12月に都市計画決定し、令和3年12月に都市計画事業認可を取得しております。 踏切の解消により、交通の円滑化、安全性の向上、地域の発展に貢献する事業であると考えております。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。
37	その他	向原、大谷口周辺は商業集積地がなく生活利便性が低い。木造密集地域の住宅更	1	現行計画において、小竹向原駅は「生活の拠点」として位置づけており、3

No.	項目	意見の概要	件数	区の考え方
		新が進まないことも街の魅力や民間投資に関係しているのではないか。東上線、三田線沿いとは異なる生活圏として、小竹向原駅周辺の土地利用転換等、魅力形成に取り組むエリアとして検討してほしい。		路線（メトロ有楽町線・副都心線、西武有楽町線）4方向（銀座・新木場、渋谷・横浜、所沢・飯能、和光市・川越方面）へ直通し、区内でも交通利便性が高く、乗降客数も多いターミナル駅です。 一方で、生活利便施設要望も多くいただいております。区も課題であると認識しております。 いただいたご意見を踏まえ、今後、地域別の都市づくり方針の検討を進めてまいります。
38	その他	東武東上線ときわ台駅と都営三田線志村三丁目駅を結ぶ既存の国際興業バス路線（常 01）がある。このバス路線に係る道路整備を板橋区都市づくりビジョンの一部とすることを意見とする。 この道路整備によるメリットは3点ある。 ①マスタープラン骨子案の実現 バス路線区間周辺で住環境の価値向上が見込まれ、バスを利用する方が増えるため、2つの鉄道路線をつなぐ移動軸形成が行え、公共交通機関を担うバス路線の維持に繋がる。東武東上線上板橋駅と都営三田線志村三丁目駅の移動軸形成をする効果もあると考える。 ②自転車利用の利便性向上 車道や歩道の拡張を行う道路整備が必要とされ、その結果として特に自転車利用の利便性が向上すると考える。 天候の良い日は自転車移動、悪天候や急用事はバス移動と使い分けられることで、この路線周辺の住環境が向上すると考える。 ③通学路の安全性向上に資する 若木小学校、日本大学豊山女子中・高等学校の通学路であるため、歩道の拡張整備を進めることにより、通学路の安全性向上に資すると考える。	1	区としても、「ひととモノのスムーズな移動」をめざしており、公共交通も含めた移動環境の充実を図るとともに安全で快適な移動を実現できる道路・移動ネットワークの構築が重要と認識しております。 いただいたご意見を踏まえ、今後、計画の検討を進めてまいります。
39	その他	東西軸(上板橋駅の拠点性向上) 東武東上線と都営三田線との間の東西軸の形成に関連して、上板橋駅へのラストワンマイルアクセスについても配慮してほしい。たとえば、赤羽駅ときわ台駅間のバス路線を、ときわ台と上板橋駅の両方を循環するルートにする等、都営三田線方面から上板橋駅周辺へのアクセス	1	区内には、鉄道が都心・副都心方向へ4つの路線が並走し、その間を、路線バスが近隣の主要駅と区内の各駅を結ぶ形で公共交通網が形成されており、交通利便性が高いことも区の魅力のひとつと認識しております。更なる魅力向上に向けて、公共交通と多様な移動手段をシームレスに利用できる環境の

No.	項目	意見の概要	件数	区の考え方
		<p>改善について配慮いただきたい。</p> <p>上板橋駅は文教施設が多く子育て世代からのニーズも高い地域で、準急停車駅や再開発、東武東上線高架化等により拠点性も飛躍的に高まると考える。一方、都営三田線方面からのアクセスが不便である。</p> <p>上板橋駅から赤羽駅までを直通する公共交通網の整備は、区民の移動に資するだけでなく、埼玉県西部の東武東上線沿線エリアから都営三田線沿線の産業集積地区への通勤需要を創出あるプラス効果も考える。</p>		<p>充実を図るとともに、都市基盤の再編・整備による道路・移動ネットワークの充実をめざしてまいります。</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、今後、具体的な都市づくりの方針を検討してまいります。</p>
40	その他	<p>上板橋～常盤台地域（ときわ通り）を文化拠点とする街づくりをと切望する。この地域には、文化施設として平和都市板橋を象徴する平和公園、中央図書館そして教育科学館があり賑わっている。さらに充実させるため、イトーヨーカドー、筑波大宿舎跡に文化施設をつくることはどうか。どちらも民間の開発であるが、民間のみに任せるのではなく文化を重視したまちづくりに積極的に関わることを提案する。</p>	1	<p>現計画の板橋区都市づくりビジョンでも、板橋区平和公園周辺は、教育科学館及び中央図書館などの公共施設と連携した緑豊かで文化的な都市づくりを方針としております。</p> <p>また、大規模な土地利用転換に対し、公共需要の変化などの地域課題の解決や周辺環境の調和に配慮した良好な開発を誘導するしくみの強化についても、引き続き検討を進めてまいります。</p>
41	その他	<p>ときわ台駅周辺の東武東上線の地下化を希望する。空いた空間を芝生や常緑樹等で緑のベルトにし、おしゃれな商店やカフェ等も作り、東上線沿線を子供や家族連れお年寄りや障がいのある人もみんなが寛げて出歩きたくなる街づくりにしたい。ときわ台駅北口のロータリーの噴水をとり芝生にしてそこから東上線沿線を緑のベルトでつなげば大きな空間が作れる。これが板橋の「ブランド」になる。</p> <p>ときわ台駅の鉄道が高架化すると、コンクリートの壁ができて常盤台と南常盤台が分断され、人の往来も減ってしまうのではと心配である。東上線の地下化はマストのキーワードではないか。</p>	1	<p>具体的な都市のイメージをご提案いただきありがとうございます。</p> <p>現在、「ときわ台～上板橋駅付近」については、東京都の踏切対策基本方針において、鉄道立体化の検討対象区間に位置づけられておりますが、ご提案いただいているような立体化に関する具体的な計画については、決定しておりません。</p> <p>区としては、立体化を促進していくうえで、鉄道沿線のまちづくりと一体的に進めていく必要があると考え「ときわ台駅周辺地区」および「上板橋駅北口周辺地区まちづくり協議会」を立ち上げ、東武東上線沿線のまちづくりを進めているところです。</p> <p>なお、みどりを重視した都市づくりや、板橋のブランド形成については、区としても重要な要素であると考えております。</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、今後、計画の検討を進めてまいります。</p>
42	その他	<p>上板橋の教育科学館や図書館と連動し、イトーヨーカ堂跡のイオンや筑波大学宿</p>	1	<p>区としても、これからの都市づくりにおいて、ひとが心地よく幸福感を感じ</p>

No.	項目	意見の概要	件数	区の考え方
		舎の跡地も含め、みどり+文化を発信する街にしたい。		られる豊かな都市空間づくりには、"みどり"が重要な要素であると認識しております。 いただいたご意見を踏まえ、今後、地域別の都市づくり方針を検討してまいります。
43	その他	ときわ台地域の「低層マンション」というブランドを緑地や文化施設等を総合的に作るように民間デベロッパーに積極的に働きかけて欲しい。今のブームメントは「Parknize する都市」であり、外国人しか購入できないようなタワーマンションでなく、今住んでいる住民が安心して暮らし寛げる街、緑が多く、知的好奇心を満たしてくれる施設が充実している街の方がずっと魅力的である。	1	区としても、これからの都市づくりにおいて、ひとが心地よく幸福感を感じられる豊かな都市空間づくりには、"みどり"が重要な要素であると認識しております。 いただいたご意見を踏まえ、今後、地域別の都市づくり方針を検討してまいります。
44	その他	板橋区の人口の 23% (4 人に 1 人) が 65 歳以上の高齢者である。今後、高齢者の増加が予想される中、高齢者対策も、都市計画に織り込んで頂きたい。現在、車や徒歩で病院、スーパー等の近隣施設に出かけているが、10 年後には免許返納し、行動範囲が狭くなり買い物難民になる不安がある。 私の住んでいる志村坂上は坂道が多く、10 年後は徒歩での行動範囲が限られる。	1	区としても、くらしの中で健康を維持しながら幸福感を感じられる都市づくりが重要であると認識しております。 また、公共交通の利便性向上を図るとともに身近な生活圏の環境の充実を図ってまいります。 いただいた意見を踏まえ、今後、計画の検討を進めてまいります。
45	その他	グリーンスローモビリティ等の都市サービスの社会実装を、志村・小豆沢地区で計画、実現して欲しい。例えば、病院とスーパーと地域社会を繋ぐサービスに的を絞ったモビリティ等のサービスが確保されれば、免許返納しても不安は解消される。「10 年後のまちづくり」の具体案として、子供、高齢者が安全に「歩きたくなる空間」の創出が必要である。 例えば、志村坂上商店街を常時歩行者天国にし、子供が常に安心して遊べる場所、高齢者・障がい者が楽しく車椅子等で散歩できる場所とし、志村坂上商店街の周辺地区にグリーンスローモビリティカーを走らせることで、高齢者・障がい者の外出機会を創出し、健康促進にも繋がる Win-Win の状況を作り出すことが考えられる。 「20 年後のまちづくり」の具体案として、子供、高齢者が安全に「歩きたくなる空間」の創出が必要である。例えば、志村商店街を活性化させるため、歩道と車道	1	具体的な施策に係る様々なご意見をいただき、ありがとうございます。 区民の皆様の生活と回遊の満足度を高めていくために、歩きやすい・歩きたくなる都市づくりを推進していきます。 いただいたご意見を踏まえ、今後、具体的な都市づくりの方針を検討してまいります。

No.	項目	意見の概要	件数	区の考え方
		の一体化、一部を緑地化を進め、休息地があって食べ歩きできるまちづくりや、地域の企業と協賛しグリーンスローモビリティや自動運転システム等の新しい都市サービスを構築し、若者への仕事場を作り出すことが考えられる。		
46	その他	<p>東西軸(都営三田線と埼京線の関係) 区内東西軸の形成に関して、東武東上線と都営三田線の関係だけではなく、都営三田線と埼京線(浮間舟渡エリア)の関係についても配慮してほしい。たとえば、整備済みのロータリー空間を活用した浮間舟渡駅から池袋駅までのバス路線の再開やコミュニティバスの設定といった既存施設を活かした施策を念頭に、計画に織り込んでほしい。(隣接する北区では浮間舟渡駅を発着するコミュニティバスが2024年から運行されている)</p> <p>浮間舟渡エリアは、都立浮間舟渡公園をはじめとした良好な生活環境が整っているが、区内の公共交通は、埼京線のほかには高島平/西台方面のバスしかない。直線距離では近いはずの志村坂上/三丁目から板橋区役所前方面の都営三田線沿線エリアへのアクセスが不便であるため。</p> <p>板橋区の北の玄関口として、埼玉県南部の埼京線沿線エリアから三田線沿線の産業集積地区への通勤需要の創出、仲宿や遊座大山等の商店街へのさらなる顧客流入による地域産業振興、埼玉県方面へのアクセス改善による三田線沿線の居住地としての魅力向上といった観点からもプラスの側面があると考え。</p>	1	<p>板橋区内は、鉄道が都心・副都心方向へ4つの路線が並走し、その間を、路線バスが近隣の主要駅と区内の各駅を結ぶ形で公共交通網が形成されています。こうした交通利便性から、都心・副都心を勤め先とする方の住宅地として、多くの方にお住いいただいています。</p> <p>路線バスのルートは、駅前にバスが入れる空間の確保、広い幅員の道路を通行するなどの制約を満たしたうえで、遅延が少なくなるように慢性的に混雑した個所は避ける、駅までの速達性のため短い距離で結ぶようにするなど、利便性を高める対応が取られています。</p> <p>このほか、近年ではバス業界全体で運転士不足が深刻化していることもあり、目的地に1本で行けるバスを随所に作り出すことは難しいのが現状です。</p> <p>今後、地域別の都市づくり方針の中で、都営三田線と埼京線の東西軸についていただいたご意見を参考にさせていただきます。</p>
47	その他	<p>板橋区の総論の話となっていて、話が大きすぎて意見が言いにくい。前週は高島平地域説明会に参加したが、総論板橋区、各論高島平で混乱する。地域ごとに問題点がちがうので、今後はそこを踏まえて説明会を開催してほしい。</p>	1	<p>改定骨子案は、板橋区全域の都市づくりの大きな方向性についてお示ししております。</p> <p>地域特性に応じた方針については、今後、地域別の都市づくり方針において検討し、区民のみなさまから広くご意見を伺いながら進めてまいります。</p> <p>引き続き、関連部署とも連携を図り、わかりやすい計画策定に努めてまいります。</p>
48	その他	<p>説明会資料について、見やすくする配慮は感じられるが、注釈文まで読む人は少ない。作り手と読み手で理解の乖離があると感じる。そこを職員側が理解する必要がある。</p>	1	<p>いただいたご意見を踏まえ、わかりやすい表現や説明に努めてまいります。</p> <p>また、区としても、区民の皆様から直接ご意見を聞く機会は重要と捉え、令和7年夏頃にもパブリックコメント及</p>

No.	項目	意見の概要	件数	区の考え方
		説明会は直接、参加者と顔を合わせて話をするようになるので、このような説明会を継続して実施することで、参加者の声を聞く環境が出来、政策に反映できるのではないか。未来の板橋区のために住民・職員が互いに知恵を出し合っていけるといい。		び住民説明会の実施を予定しております。 この他にも、ご意見を伺う機会の創出について検討しておりますので、区のホームページや広報、SNSを活用し、広く情報発信に努めてまいります。
49	その他	改訂骨子案の表紙の年号は西暦にしてほしい。せめて括弧で西暦を入れてほしい。	1	いただいたご意見を踏まえ、西暦表示もあわせた表現に修正させていただきます。
50	その他	改訂骨子案が見つらい。表紙は A3 全紙横で、2 ページ第 1 章は共通に A3 なのに、次からは A4 縦使いになっている。 文書を基本として、その上で、図やイラスト等で理解を深めるのが良いのではないかと。改善を求めたい。また、プリントアウトがしにくいので改善を求める。	1	改定骨子案は、全ページ A3 横づかいで作成しております。パソコン等の画面上でご覧いただきやすいよう作成しましたが、いただいたご意見を踏まえ、今後の資料作成について研究いたします。 なお、今後、素案以降は、計画書の体裁と同様の A4 縦づかいで作成してまいります。
51	その他	骨子案第 1 章 板橋区都市づくりビジョンの位置づけと役割・計画期間について、基本構想から触れないと上位下位の関係がわからないので説明してほしい。 また、用語説明に「基本構想」「基本計画」を入れてほしい。	1	板橋区都市づくりビジョンは、板橋区基本構想で目指す将来像を実現するために、板橋区の都市づくりの方針を示している計画です。 いただいたご意見を踏まえ、今後、計画として整理していく中で、区民の皆様に分かりやすい構成や表現について検討してまいります。
52	その他	現行の板橋区基本構想はいつからいつまでなのか教えてほしい。 2005 年の板橋区基本構想はいつまで有効だったのか教えてほしい。	1	現行の「板橋区基本構想」は、平成 28（2016）年度から概ね 10 年後における望ましいまちの姿を示しています。 前「板橋区基本構想」は、平成 17（2005）年度に策定し、平成 27（2015）年度に、社会経済環境の変化を見据え、3 つの基本理念と将来像の考え方を継承しながら、見直しを行いました。 なお、令和 8（2026）年度を始期とする次期基本構想・基本計画策定のために、板橋区基本構想審議会を設置し、現在検討を進めております。
53	その他	現行の板橋区基本構想は、2005 年の板橋区基本構想とどのようなところが相違しているのか、特徴的なところを教えてください。	1	平成 17（2005）年度に策定した「板橋区基本構想」の 3 つの基本理念と将来像の考え方は継承しつつ、現行基本構想ではより区民がわかりやすい表現として見直しております。 また、平成 17（2005）年度の「板橋区基本構想」では 3 つの施策の方向を示していましたが、現行基本構想では、

No.	項目	意見の概要	件数	区の考え方
				将来像を政策分野別に具現化し、概ね10年後を見据えた「9つのまちづくりビジョン」を掲げ、未来を担う子どもたちにとってもわかりやすくなるよう表現を工夫しております。
54	その他	都営三田線の沿線に区や都の重要な施設を設置することについては、近年の豪雨等の想定外の荒川水災害による機能不全の可能性が懸念される。	1	浸水地域にあっても住民に必要な公共サービスを提供できるよう、ハードとソフトの両面から水害時の安全対策を講じながら、更新・整備に併せて機能充実を図ってまいります。
55	その他	常盤台の旧中央図書館跡地には、音楽や演劇等ができる施設を中心とした多目的な施設をお願いしたい。文化拠点の充実、持続可能、にぎわい、品格のある街として評価、街の発展に寄与すると思う。	2	中央図書館跡地は、第一種低層住居専用地域にあり、ご意見の趣旨に沿った文化施設を建築することは難しい状況です。 一方で、これまで常盤台区民事務所の移転を前提としてきた考え方は見直し、上板橋駅南口駅前周辺地区におけるまちづくりの進展や緑化及びDXの推進状況等を踏まえ、改めて令和6年度に活用方針を策定する予定です。 広く区民の皆様のご意見を伺いながら検討を進めてまいります。
56	その他	土地利用について、諸施設の特性による適正な配置をして欲しい。例えば「相談ができる場を含む障がい者サポートセンター等」は区内に一つであれば、行きやすい場所にして欲しい。	1	土地利用の方針としては、各地域の個性化を図り、地域間での連携・協調が図れる都市機能の誘導施策について、検討を進めてまいります。 公共施設と連携した都市づくりの展開を図るため、いただいたご意見を踏まえ、関連部署と連携しながら、今後、計画の検討を進めてまいります。
57	その他	植村記念加賀スポーツセンターについて、名称から「植村記念」を削除し、冒険館を移転して欲しい。以前の会館への入場者数の少なさへの解決策として、詰め込まれて迷惑をしている。また、加賀周辺地域のコミュニティが活発になるように会議室を戻して欲しい。プールの開閉屋根パネルも修繕して元通りにオープンにしてほしい。	1	東板橋体育館（旧称）と植村冒険館の複合化に関しては、平成27（2015）年に策定した「公共施設等の整備に関するマスタープランに基づく個別整備計画」において考え方を整理し、公表しております。 区では、適切なコスト管理による計画的な整備と将来需要を見通した最適化に向けた公共施設整備に努めてまいりますので、ご理解をいただきたいと思います。 また以前、会議室があった3階フロアは複合施設化に伴い、植村冒険館、体育館スタッフの事務所となっております。会議室は地下1階に2部屋ございますが、以前より会議室が狭くなったため、リニューアル当初より第2武道場（板張）を会議室としてもご利用い

No.	項目	意見の概要	件数	区の考え方
				ただけます。 プールの開閉窓は改修以前より故障しており、使用できない状態でした。大規模改修の際に窓は開閉式ではない仕様となりました。
58	その他	高齢者はもちろん、子供連れの人が外出の途中で休憩できる場所や椅子がたくさんあるとよい。	1	具体的なご提案をいただき、ありがとうございます。 区としても、居心地よく歩きたくなる都市づくりの展開を進めてまいります。いただいたご意見を踏まえ、今後、具体的な都市づくりの方針を検討してまいります。
59	その他	自転車道と歩道の区別もない中に「グリーンスローモビリティ」が持ち込まれ混乱している。どうして電動スケートがノーヘルで車種によっては無免許でなぜ走れるのか。違法電動自転車もたくさん走っており、短期で評価を出して危険なものは規制してほしい。	1	20年以上先を見据え、グリーンスローモビリティを含む次世代モビリティの社会実装にあわせてよりスムーズな移動を実現するための都市基盤整備などに関する都市づくりの方針を検討してまいります。 また、交通ルールの周知・啓発などのソフト施策とも連携し、安全で快適な移動の充実を図るため、引き続き計画の検討を進めてまいります。 グリーンスローモビリティは、時速20km未満で公道を走る電動で小型の移動サービスです。社会実装を想定した交通結節点（駅前広場等）や道路等の空間再編・充実を図り、シームレス（境目なく）な移動を実現していく施策について検討を進めてまいります。 また、電動キックボードなどの特定小型原動機付自転車については、令和5年の道路交通法改正により、一定の条件のもと、免許不要で運転が可能なものとなっています。 区では、啓発イベント等で重点的に交通ルールの周知・啓発を実施しており、引き続き、警察に対する取締りの強化を要望するとともに、相互に連携した安全対策と啓発活動に取り組んでまいります。
60	その他	鉄道と駅間バスも含めて乗り換え放題、低額で移動できる「区民環境パス」をつくることで、自動車移動を減らせるとよい。	1	鉄道・バスといった公共交通機関は、皆さんが日常生活でご乗車いただくことで成り立っている乗り物です。板橋区内ではそれほど自動車に依存した移動は見られませんが、今の公共交通の利便性維持には、皆さんの鉄道・バスの積極的なご利用が大切です。 今後、計画の改定検討におきまして、



No.	項目	意見の概要	件数	区の考え方
				いただいたご意見を参考にさせていただきます。
61	その他	新河岸川の人と荷物の水運を充実させることで、多摩川と違った良さを打ち出せるのではないかな。	1	区としても水辺空間は、板橋区の貴重な地域資源であると認識しております。 このような地域資源を活かした都市づくりの方針について、引き続き検討を進めてまいります。
62	その他	幹線沿道への耐震性向上の支援について、山手通り（環状6号線）を始め、重要施設や病院等の周辺への輸送路について特定緊急輸送路への位置づけが必要である。助成金額の物価値上げに伴う実勢価格との見直しをしてほしい。	1	有事の際に役割を果たせる災害に強い道路ネットワークの形成は、安心・安全な都市づくりにおいて重要であり、区は一定規模以上の沿道建築物に対し、耐震化促進助成を行っております。助成内容は東京都とも連携を図りつつ、見直しを行ってきたところでございます。 いただいたご意見を踏まえ、今後、計画の検討を進めてまいります。
63	その他	開発により、タワーマンション等が建つことで、オリンピック後の晴海フラッグのような不動産投資の対象となり、空き家が増える可能性について心配している。一般区民が買えるように対策をしてほしい。	1	タワーマンションなどの販売において、投資や転売目的の取引が増加し、空き部屋が増えることは、地域のにぎわいや区が進める「住みたくなるまち」の実現の観点からも、決して望ましいものではないと考えております。 区としても、投資や転売目的の取引の抑制につながる取組を検討するとともに、マンション販売を担う不動産会社などに対し、協力を求めています。
64	その他	公的な住宅の充実が必要である。十分な維持管理を行い長く使うことがエコである。集合住宅の特殊性に関する研究や支援を行ってほしい。木造戸建ての対震性耐火性の向上に効果のある施策が必要である。	1	区としても、良質な住宅ストックの形成は、防災面や環境面においても重要であると認識しております。 いただいたご意見を踏まえ、関連部署との連携を図りながら、今後、計画の検討を進めてまいります。
65	その他	大変素晴らしい都市ビジョンだと思う。大枠に賛同するが、板橋区の優れた特性を活かせていない点を感じた。 板橋の都市名「板橋」の表記が少ない点。 板橋は、江戸時代初期から中山道を幹とし枝葉を付けるように発展して来ており、戦災で消失したものが多いため、残った遺産は「板橋区の魅力・つよみ」となる。旧中山道の整備を計画に入れてほしい。	1	ご理解いただき、ありがとうございます。 現在の区の成り立ちを形作ってきた歴史についても、区の重要な資源であると認識しております。 いただいたご意見を踏まえ、今後、板橋区の魅力・つよみを活かした計画の検討を進めてまいります。
66	その他	「板橋」のロゴからは、エコロジーを強く感じる。都内先進地域で始まっている木造高層ビルの建設が実現できるような環境整備が進めば、イタバシの響きは、レガ	1	脱炭素化を展開する上で、木材を有効活用した建築物の普及は、重要であると認識しております。 いただいたご意見を踏まえ、脱炭素社

No.	項目	意見の概要	件数	区の考え方
		シーと先進性を含む響きになるかも知れない。「板橋」ロゴを巧く使うとともに、板橋区内にも木造中高層ビルが実現出来るよう環境整備を検討いただきたい。		会に貢献する都市づくりとなるよう、今後、計画の検討を進めてまいります。
67	その他	地域の町会の会館やマンション集会室は地域コミュニティの拠点であることを鑑み支援策が必要である。	1	地域コミュニティ形成の場として、町会やマンションの集会室は重要であると認識しております。 地域コミュニティ形成活性化に寄与できるような都市づくりの方針を、引き続き検討を進めてまいります。
68	その他	高齢者へのデジタル活用支援が必要である。例えば、板橋区内のタクシー事業者と協力して、オンデマンド型の「タクシー呼び出しアプリ」を開発して、「いたばしPay」と連携させてはどうか。	1	具体的な施策に係る様々なご意見をいただき、ありがとうございます。 いただいたご意見を踏まえ、今後、計画の検討を進めてまいります。
69	その他	人材の確保や育成にかかる課題の解決策として、板橋区内にある大学に工学系の学部を新設して都市空間の創造/デザインをする拠点づくりや専門の育成が考えられる。	1	多様な人材による都市づくりの推進については、区も重要であると認識しております。 いただいたご意見を踏まえ、今後、計画の検討を進めてまいります。
70	その他	「SDGs 戦略」として、直ぐに出来そうなCO2 削減策として、国道 17 号線上りの朝の渋滞改善（渋滞の時は大和陸橋から環八まで渋滞している時がある。）がある。解決策として、細い道路から幹線に合流する車の量を制限して（青信号時間を短縮）、幹線道路の「青信号時間を長く」して渋滞を緩和することが考えられる。	1	関連する行政機関に、ご意見をお伝えさせていただきます。 いただいたご意見を踏まえ、今後、計画の検討を進めてまいります。
71	その他	高齢者への施策の要望として、地域の商業施設が中心になって、高齢者、障がい者の外出機会を創出し、地域の活性化に協力をお願いしたい。具体的な事例案としては、商業施設には平日、スーパーで買い物をしてフードコートで昼食を楽しむ場の充実（高齢者に好まれるメニューの充実等）や 高齢者に向けた衣類販売の充実、病院には病院周辺の患者に対する送迎のモビリティバスや ときわ台駅への直接アクセスできるモビリティバス、バス事業者には営業所内に自動運転等に関する開発センターを設置して最新技術を取り入れる等、地域内の中心的な役割を担ってもらうことを要望する。 今後の進め方としては、まず、高齢者の地域住民が 10 年後に何を要望するかアンケートをする。板橋中央病院、帝京大学病院、東京大和病院の患者様が何処からくるかのアンケートをする。各商業施設の	1	具体的な施策に係る様々なご意見をいただき、ありがとうございます。 いただいたご意見を踏まえ、関連部署との連携を図りながら、今後、計画の検討を進めてまいります。

No.	項目	意見の概要	件数	区の考え方
		お客様が何処から来られるかアンケートをする。次に、行政機関でプロジェクトを立ち上げ、構想のドラフトを作成し、目的の明確化をする。地域の関連企業、病院をピックアップし、協力が得られるかロビー活動をする。本プロジェクトの目的を地域住民に説明し、コンセンサスが得られるかが、当面の目標である。		
		計	72	件